

令和3年度使用中学校教科用図書採択理由

和歌山大学教育学部附属中学校

種目	発行者	採 択 理 由
国語	光村図書出版株式会社	「読む」「話す・聞く」「書く」のそれぞれの能力育成のために、生徒が課題解決に向けての見通しを確認しやすい教材が多くあることから、知識・技能を使いながら思考・判断・表現できるようになっている。また目的をもって文章を読み深めるとともに、言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、自分の考えをもつことが「手引き」で生徒にもわかりやすく明示されている。情報コラムなどを設けており、メディアリテラシーを養う教材があり、iPadを用いる我が校には適している。
書写	光村図書出版株式会社	「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の構成で、小学校での既習事項を押さえやすい。また、筆遣いのポイントが記号・点線・濃淡などに加え、写真や動画を使って視覚的にわかりやすく表現されている。生徒が学習内容を確認しやすく、生活に生きる教科書となっている。
地理	帝国書院	どの単元も地図帳を活用しながら学習を進めやすい構成になっている。また二次元コードが掲載されており、生徒の学習理解を助けるコンテンツが閲覧できるようになっている。話し合いの視点が統一された単元のまとめとなっていることであることで、生徒が自分たちで考え話しあい説明できる教科書である。
歴史	帝国書院	各単元の始まりには絵画や写真、遺跡などの資料を下に描かれたイラストで時代のイメージを視覚的に捉えさせる工夫がある。深い学びにつながる「問い」が設定されている。章の振り返りがしやすい構成になっている。
公民	帝国書院	各単元の始まりには身近な生活に関連するイラストからの読み取りが設定されている。生徒の興味関心を引きつけ、主体的な学びを促す工夫が多く見られる。「社会的な見方考え方」が示されており単元のまとめが自分で学習できるようになっている。
地図	帝国書院	鳥瞰図やイラストを用いた地図など生徒が興味関心を高める工夫がある。地図に関連する情報や資料が豊富であるため、調べ学習や他教科での活用、資料集としても適している。
数学	株式会社新興出版社 啓林館	多様な題材が用いられており、生徒が主体的に数学的な活動・言語活動を進め、数学的な思考力・判断力・実践力・表現力を身につけることができるよう工夫されている。教材の系統性が重視されており、理解を深めやすい構成となっている。
理科	東京書籍	実物写真を使った実験方法などの解説がありとてもわかりやすい。自分の考えを書くことを重視している構成である。また、多様なイラストや科学の歴史や科学の本だななどの子供たちの興味が湧くような仕掛けがたくさんある。章末ごとの言葉の整理や問題集がとても充実している。
音楽	株式会社教育芸術社	各単元の始まりに何を学ぶかが明示されており、生徒にとって学習の流れやどのような力を付けられれば良いかがわかりやすく、主体的に取り組みやすい。また、扱う楽曲に関係する用語や記号、音楽を形づくっている要素などについて見やすく取り上げられるなど、視覚的にも理解を深められるように工夫されている。
美術	日本文教出版株式会社	生徒の興味関心を喚起しやすい題材が設けられ、基礎から発展へと系統だった学習がスムーズに展開できる。また、日本の伝統文化を伝える作品の提示や現代アートを取り扱ったものなど、美術作品のレイアウトや紙質の工夫などに配慮がある。
保健体育	株式会社学研教育みらい	基礎・基本の習得と課題解決学習がバランス良く配置され、多様な学習活動によって生徒が主体的に学習を進めることができる。各時間に「課題をつかむ」や「ふかめる」などがあり、本校が重視する主体的で協同的な学習に適した学習課題が多く示されている。
技術	開隆堂	学習の各小項目において、「学種の目標」が示されているとともに、「調べてみよう」の活動例や振り返りをする場面も設定されている。QRコードを読み取ることにより、動画資料を閲覧することができる。主体的・対話的な学びを実現することができる課題が設定されている。
家庭	開隆堂	小学校での学びを中学校の学習につなげるために、小学校の学習内容も掲載されている。各学習内容で学習の目標を示すとともに、学習の目標に対して振り返りを考えるまとめが整理されている。持続可能な社会について考えるため、SDGsについて掲載されている。QRコードを読み取ることにより、動画資料を閲覧することができる。
英語	三省堂	QRコードが掲載されており、語句や本文・リスニング教材などの音源を生徒が各自で読み取り、家庭での学習でも個別に活用できる。Get, USE-Read, USE-Read, USE-Write, Let's Talkなど習得、活用の構成が巧みである。
道徳	東京書籍	用意されている発問の量が適切かつ的確であり、生徒達が議論するポイントが明確である。「考えよう」で教材から内容項目について考えを深め、「自分を見つめよう」で自分事と引き付けることができる。教材文の長さが適切である。(おおよそ見開き2ページ以内に収められている。)いわゆる読み物教材(物語)だけでなく、新聞記事・漫画などもあり、またジレンマ教材など生徒が議論しやすい工夫がある。目次において、それぞれの教材が指導要領に示される4つの視点のどれに当てはまるのかを視覚的に示されており、生徒・教員ともに教材相互の関係性がわかりやすい。